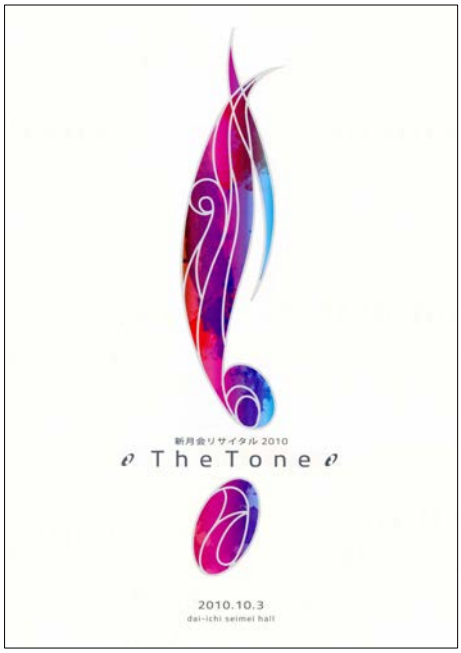
新月会リサイタル2010【2010年（平成22年）10月3日】第一生命ホール



3. 男声合唱組曲「航海詩集」（増補改訂版・初演）

作詩　丸山　薫
作曲　多田武彦
指揮　広瀬康夫

Ⅰ. キャプスタン
Ⅱ. 船おそき日に
Ⅲ. コンパスづくし
Ⅳ. わが窓に
Ⅴ. 帆船の子

3

組曲「航海詩集（増補改訂版）」について

多田武彦

私事ながら、創業期の松竹（株）の役員をしていた祖父は、初孫の私にも、この道を歩ませようと思ったのか、私が未だ小学生の頃から歌舞伎・浄瑠璃・映画・浪曲・寄席芸能・大衆演劇・演歌などを見聞きさせた。終戦後ジャズやミュージカル映画が流行するにつれて、私の関心はこの方角にも広がり、将来は映画監督になってミュージカル映画を製作してみたいと思い、1946年から和声学と楽式論の勉強を独学で始めた。

1949年の5月に開催された関西学院グリークラブ50周年記念音楽会を拝聴した私は、人間の声だけでこんなに素晴らしい音楽を奏でることが出来るのかと驚嘆した。

1950年に京都大学に進んでからも直ぐに合唱団に入り、京都の名門同志社グリークラブの名演に酔い痴れ、更に1952年には早稲田大学グリークラブのダイナミックな演奏や、慶應義塾ワグネル・ソサイエティー男声合唱団の流麗な演奏に感動し、ア・カペラ男声合唱曲に完全に取り憑かれてしまった。

家庭の事情で映画監督への道を諦め銀行に勤務することになった機会に、音楽もやめようとしたが、ご薫陶を受けた清水脩先生（故人）の助言もあって、日曜作家のつもりで一年に男声合唱組曲を一作品だけ書くことにした。「柳河風俗詩」「富士山」「雪と花火」と続けていくうちに1958年、初めて関西学院グリークラブから新曲の仕事を頂いた。

前述のとおり私に男声合唱の崇高さを教えてくれた関西学院グリークラブからの委嘱は身に余る光栄であった。身の引き締まる思いで書いた組曲「中勘助の詩から」の初演は、関西学院グリークラブの名演奏により成功。

翌年には組曲「雪明りの路」を作曲させて頂き、名演奏が続いた。

1960年、三たび委嘱の栄に浴し、組曲「航海詩集」を書いたが、実はこの頃から、勤務は超多忙を極め、深夜の帰宅や休日出勤が続き、体力は頗る衰えていた。作品の構成力も可成り弱っていた。関西学院グリークラブの名初演にも拘らず、(今から顧みれば)「航海詩集」にも組曲としての構築性に弱点があった。全国の男声合唱愛好者の評価は流石に厳しく、三曲目の「わが窓に」以外は、余り愛唱されなくなった。

海洋国日本の男性は、海に憧れ、船乗りに憧れる。詩人丸山薫先生(故人)も東京高等商船学校に在学されておられた。このことからか、1980年を過ぎた頃から、絶版となっていた「航海詩集」の再版有無の照会がふえてきた。私としても名誉挽回のため、増補改訂版を考え続けていたが、中々纏まらないまま年月が過ぎた。

2008年、稲門グリークラブから「早稲田大学グリークラブ創立百周年記念演奏会ために男声合唱曲を作曲してほしい」との委嘱があり、急遽、丸山薫先生の詩集の中から前記増補改訂のための候補の一つとしてあたためていた「帆船の子」を選んで力強い船乗りの歌を作った。結果、創立百周年記念演奏会に相応しい名初演となった。

しかしこの頃から、私自身、老い先の短くなったことを痛感していたので、記念演奏会終了後一年経ってから、この「帆船の子」を加えて組曲「航海詩集」の再構築をおこないたい旨を稲門グリークラブに申し出て、了承を頂き、増補改訂版を作曲した。今年の初め改定前の作品の初演団体である新月会と関西学院グリークラブに増補改訂版のことをお話し、男声合唱組曲「航海詩集(増補改訂版)」が初演時より50年ぶりに日の目を見た。

増補改訂版の計画は、生前の丸山先生にもお話してあり、先生も楽しみにしておられたが、1974年に75歳でお亡くなりになった。聴いて頂けなかったのがこの上なく残念である。

演奏会のご成功を心よりお祈り申し上げる。